すてきな本と出会いたい！

発行：世田谷区立男女共同参画センターらぷらす

らぷらす ライブラリーニュース Vol.10

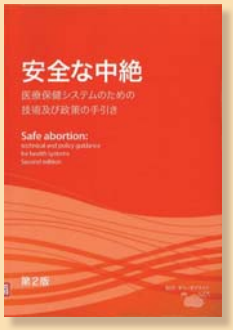
春号 2015.3

わたしが決める、パートナーと選ぶ。大事にしたい！自分の性

国連の「国際人口・開発会議」（1994年）で採択されたカイロ行動計画には、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」＊ が女性の重要な権利の一つとして大きく取り上げられました。その結果、今日では女性の生涯にわたって、からだと性の健康、とくに妊娠、出産、出生調節などについて、女性は自分で選択できる、つまり女性に自己決定権があることが国際社会で認識されるようになってきています。産む・産まない、何人産むか、いつ産むかを決めるのは、他でもない自分自身。今回は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」に関する本を選びました。理解を深めるために、どれか1冊でも手に取ってみてください。

『安全な中絶』

世界保健機関（WHO）
リプロダクティブ・ヘルス部門 著
すぺーすアライズ 訳
世界保健機関



世界では、過去20年間に「安全な中絶」をめぐる状況が大きく進展した。その一方で、安全でない中絶が毎年推計2,200万件行われ、その結果、推計47,000人の女性が死亡し、500万人の女性が障がいを負うことになったという。女性の健康や人権保護のためには、中絶について個々の女性の意思を尊重し、最も望ましい医療を女性自身が選び取ることが大切である。

『ハタチまでに知っておきたい性のこと』

橋本紀子・田代美江子・関口久志 編
大月書店

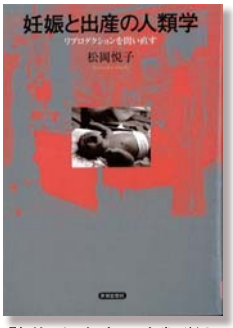
近年、国際的に性教育は生理学的側面ばかりか、健康に関わる科学的知見、社会での関係性や性的活動のための価値観やスキル、さらに文化的側面までカバーして多面化している。性教育は、幼児期から高齢期までの生涯にわたる学習が不可欠で、そのためにも学校の役割は重大。日本の学校現場ではこれが停滞・衰退しているのではないかという危機感が伝わる。

＊「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」とは

性と生殖に関する健康・権利と訳される。リプロダクティブ・ヘルスとは、人間の生殖システムおよびその機能と活動過程のすべての側面において、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを意味し、リプロダクティブ・ライツとは性に関する健康を享受する権利を指す。すべての個人に保障される健康概念であり、権利である。

［性と生殖に関する本］

『お産を楽しむ本』
椎野まりこ・上原有砂山 著
農文協



『妊娠と出産の人類学』
松岡悦子 著
世界思想社

『産婦人科の窓口から』
河野美代子 著
子どもの未来社

『不妊治療の今』
不妊治療情報センター 構成・編集
シオン

らぷらす
ホームページ
↓

http://www.laplace-setagaya.net

利用案内

らぷらす資料コーナーへようこそ！

らぷらす資料コーナーでは、およそ１万９千点の書籍や DVD、行政資料などを所蔵しています。運転免許証や健康保険証など、住所とお名前が確認できる書類をお持ちいただければ、その場で利用者登録が可能です。１回につき３点まで、２週間の貸出が可能です（AV 資料１週間まで）。

らぷらす開館時間
9:00-22:00

図書貸出時間
9:00-21:30

休館日毎月第３月曜日
（祝日の場合はその翌日）
及び年末年始

新着図書

『フランスに学ぶ男女共同の子育てと少子化抑止政策』

世界に目を向ける

冨士谷あつ子・伊藤公雄 編著
明石書店

フランスでは、家族構造の変化や多様性に柔軟に対応できる社会を作るために、家族政策や労働政策を改革してきた結果、少子化の抑止に効果を上げている。フランスの家庭における男女がともに担う子育てからは、日本が抱える子育ての問題と私たちがフランスから学ぶべきものが浮かび上がってくる。

『イスラーム世界のジェンダー秩序』

辻上奈美江 著 明石書店

イスラム諸国の家族法、フェミニズム運動や、国際関係論とジェンダー視点から見る「アラブの春」とその影響を各国の歴史と詳細データで説明。

『山本美香が伝えたかったこと』

山本美香・ジャパンプレス 著 山梨日日新聞社

シリアで取材中に凶弾に倒れたジャーナリスト。彼女が命をかけて伝えたかった戦争や被災地の写真と記事、インタビューがまとめられている。

『パンパンとは誰なのか キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性』

戦争と性

茶園敏美 著
インパクト出版社

占領期におけるGHQ主導の性病検診、キャッチという名の警察による検挙など、戦後混乱期の日本女性への性暴力問題を論じている。戦後70年を経て風化しつつある問題を、改めて広く知らせるためにも注目したい一冊。

『日本占領とジェンダー』

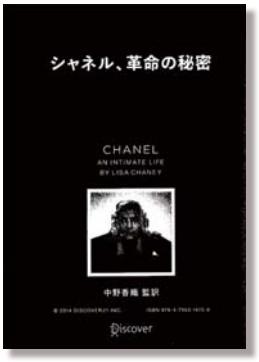
平井和子 著 有志舎

軍隊を維持するために「性的慰安」は本当に必要なのか？日本占領をジェンダーの視点から問い直し、「軍隊と性暴力」の問題を再考する。

『戦争と性』

マグヌス・ヒルシュフェルト著
高山洋吉訳／宮台真司 解説 明月堂書店

著者が主宰するベルリン性科学研究所による『世界戦争の性風俗』の日本語版。研究方法と平和を願うヒューマニズムが特徴的である。



『シャネル、革命の秘密』

女の生き方

リサ・チェイニー著 中野香織 監訳
ディスカヴァー・トゥエンティワン

世界的ファッションブランドを築いたココ・シャネルは独創的なデザインとその革新的な生き方で、20世紀に最も影響を及ぼした一人となった。貧しく孤独な幼少時代を経て、モード界の革命児になったシャネルの生涯には謎が多いが、豊富な新資料に基づく本書によって、輝かしい「シャネル神話」が、彼女の孤独との葛藤であったことがわかる。

『レイチェル・カーソン いまに生きる言葉』

上遠 恵子 著 翔泳社

『沈黙の春』で環境問題に警鐘をならしたレイチェル・カーソン。その生涯と思想には、現代人に必要なメッセージがある。

『ムーミンの生みの親、トーベ・ヤンソン』

トゥーラ・カルヤライネン著
セルボ貴子・五十嵐淳訳 河出書房新社

女性の地位・自立・創造性を重視し、仕事でも私生活でも女性らしさに縛られず、何よりも自由を大切にしたトーベ・ヤンソンの生き方に迫る。

絵本

■『あっ！そうなんだ！性と生』

浅井　春夫他 著
エイデル研究所

からだや性のしくみ、家族、DV、いのち、ジェンダー、いじめまで、性を知ることは生きることと深く関わっていることに改めて気付かされる。性についての学びは幼児期から始まるという。この絵本は子どもの疑問にしっかり答えてくれる。

コミックス

■『今夜もホットフラッシュ』

青沼貴子 著
メディアファクトリー

子育ても一段落、ほっと一息と思ったら…。たとえツラい症状でもいつかは終わる、だから楽しく笑い飛ばして過ごそうよ！と同世代におくる、読むと気持ちが明るくなる更年期体験コミックエッセイ。

DVD

■『ルッキング・フォー・フミコ』

栗原奈名子 監督
1993年

ひとりの日本女性との出会いから、ニューヨークに住む監督が日本のウーマン・リブ運動を探す旅に出る。「女として私はどう生きたいのか」、70年代のリブ参加者が追求し続けた姿を描いた女性史とも言えるドキュメンタリー。

貸出中の場合は予約ができます

〒155-8666 世田谷区北沢2−8−18　北沢タウンホール10階
TEL 03-5478-8022　FAX 03-5478-8026
らぷらすホームページ　http://www.laplace-setagaya.net
らぷらす facebook page
facebook
世田谷区立男女共同参画センター
らぷらす